



【韓国】 総合指数は 0.1%高と 7 週続伸、経済見通しの好転で最高値更新

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.1%高と 7 週続伸。週を通じて狭いレンジでもみ合った。韓国の新型コロナの新規感染者数が過去最多水準で推移する中、ワクチンの早期実用化への期待が経済活動低迷への懸念を相殺した形になった。週明け 14 日と 15 日は主要国による一段と厳しいロックダウン（都市封鎖）措置に対する懸念が高まり、小幅に続落した。しかし 16 日は前日の米株高を受けて 3 日ぶりに反発。終値で 3 日ぶりに過去最高値を更新した。米議会による追加経済対策協議の再開も好感された。17 日は反落したものの、18 日は小幅ながら上昇し、再び過去最高値を更新している。今週は 2800 ポイントを試す展開か。引き続き、ワクチン実用化状況が相場を動かす見込み。25 日はクリスマスの祝日で休場のため 4 日間の取引となる。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は 0.7%安と 7 週ぶり反落、今週は経済制裁などが焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.7%安と 7 週ぶりに反落。対ロシア経済制裁への懸念やルーブル安、銀行最大手の株価下落が重しとなった。週明けはコロナワクチン普及への期待が支援となったが、米政府機関へのサイバー攻撃問題で米国による対ロ経済制裁が懸念され、4 日ぶりに反落。原油高を好感し 16-17 日に続伸したが、18 日はルーブル安やデジタル通貨導入で流動性問題が生じるとされたズベルバンク・オブ・ロシアが大きく下落し、指数を押し下げた。指数は 18 日に一時、10 カ月ぶりの戻り高値を付けたが、7 週ぶりに反落して週を終えた。個別では産金株やエネルギー株が週間で上昇した一方、時価総額最大のズベルバンク・オブ・ロシアが 4.8%下落した。今週はコロナ感染拡大、ワクチン普及、原油相場、経済制裁が焦点か。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は 2.1%高と 7 週続伸、今週も海外から資金流入が続く

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.1%高と 7 週続伸。米国による為替操作国認定が重しとなったが、経済成長見通しを背景に資金流入が続いた。前週までの 6 週続伸で 2018 年 5 月以来、2 年 7 カ月ぶりの水準を回復した VN 指数は週明け 14 日も金融株や不動産株に資金流入が続き、前営業日比 1.7%高と続伸。高値警戒感から 15-16 日にもみ合った後、17 日は米国がベトナムを為替操作国に認定したことが嫌気され、指数は 1.4%安と反落した。ただ、18 日は押し目買いが強まったことで 1.5%高と反発。場中に 1068.56 ポイントと 2018 年 5 月 16 日以来の高値をつけ、1067.46 ポイントで引けた。個別ではベトナム・ラバーが 21.3%高、テクコムバンクが 13.8%高、軍隊商業銀行が 7.4%高となり、指数を押し上げた。今週も海外資金の流入が続くか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.8%高、16日に約11カ月ぶりの高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で2.8%高と11週続伸。1週間を通じて終値で6000ポイント台を維持した。週初の14日は、11月の貿易統計発表を翌日に控え、輸出増加に伴う貿易黒字の伸びに対する期待感から買い優勢の展開となり、指数は前営業日比1.2%高と続伸。15日はほぼ横ばいだったが、16日は前日のNYダウが反発した流れを引き継ぎ、終値で前日比1.8%高と約11カ月ぶりの高値を更新した。ただ、週後半は6100ポイントを挟んでもみ合いながら、終値ベースでは18日まで続落している。今週は国内の経済指標発表が少なく、外部要因に左右される展開になりそうだ。24—25日はクリスマスの祝日で休場。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は1.0%高、政府が経済活動再開の最終段階移行を決定

ストレーツタイムズ指数は週間で1.0%高と3週ぶりに反発。週初の上昇が指数を押し上げた。14日は経済活動再開に向けた制限緩和に関するリー・シェンロン首相の演説を目前に控えた期待感から買われ、指数は前営業日比1.3%高と3日ぶりに反発。その後は一進一退の値動きが続き、17日は11月の非石油地場輸出が前年同月比4.9%減と市場予想から下振れした影響で売り優勢となった。18日は英国と欧州連合（EU）の通商交渉の難航などが嫌気され、続落して取引を終えている。今週は23日に11月のCPI、24日に鉱工業生産が発表される予定。24日はクリスマスイブのため半日立ち合い、25日は休場となる。

▼指数チャート

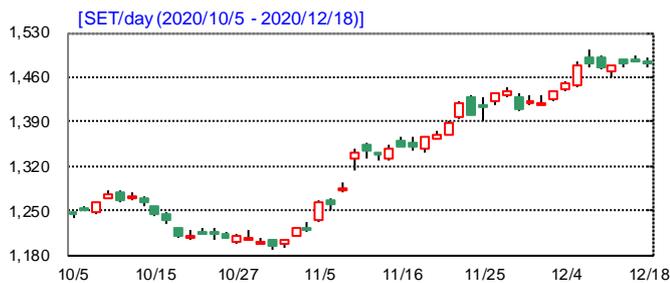


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は0.02%安、今週は11月の貿易統計に期待

SET指数は週間で0.02%安とほぼ横ばい。国内の経済イベントが少ない中、小幅なレンジでの値動きが続いた。連休明けの14日は、金融株とエネルギー株が売られ、指数は5営業日ぶりに反落。ただ、15日に反発すると、その後は17日まで3日続伸したが、18日は前日に日本を含む56カ国からの入国規制の緩和が発表されたものの効果は限定的で、小幅に反落して取引を終えた。今週は22日に11月の貿易統計（通関ベース）が発表されるほか、23日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。外部要因では、新型コロナワクチンの本格的な接種開始を好感したNY原油先物価格の上昇が追い風か。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は1.9%安、一部地域で活動制限令を年末まで延長

クアラルンプール総合指数は週間で1.9%安と7週ぶりに反落。国内要因が指数下落を主導した。週初の14日は、マハティール前首相が共同会見を開いたことで、政局に対する不安感が広がり、指数は前営業日比1.3%安と6日ぶりに反落。一方、15日に21年度予算案が最終採決で可決する見通しが報じられた効果で反発すると、16日は前日の可決が好感されて続伸した。ただ、週後半は買い材料に乏しく、17日に反落すると、18日はクアラルンプールなどで活動制限令が年末まで延長された影響で、前日比1.3%安と反落している。今週は23日に11月のCPIが発表される予定。25日はクリスマスのため休場。

▼指数チャート



本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。